つながろう！ＪＡＰＡＮ～ＰＳＷ

みちのくホットライン@JAPSW 第 39 号

東北復興 PSW にゅうす

東日本大震災から９年目を迎えました。今号は、３.11 に寄せて岩手、宮城、福島の３県の支部構成員や東日本大震災復興支援委員会委員からの、メッセージ特集です。それぞれの想いや現地の今を伝えます。

そういう日としての 311

宮城県支部　氏家 靖浩
／仙台白百合女子大学人間学部人間発達学科　教授

「まだ震災に関わっていることに敬意を表します」と言われるたびに困惑してしまいます。何か特別なイベントとして東日本大震災と向き合っているわけではないからです。東日本大震災の影響が残る場に、そのまま暮らしている人々がいて、我々の手立てが少しは有効なようなので、可能な限りそれを試み続けているだけです。この手立てとは、精神保健福祉士が積み重ねてきた技(わざ)です。震災とは我々が一生をかけて立ち向かうには十分な相手ですし、我々は、特別なこととしてではなく、ソーシャルワークが震災と日常的に向き合うように位置づけられた日として３月 11 日を記憶し、若者にも伝えていきたいと思うのです。永六輔氏の話で、尺貫法が禁止ならオレの目も取り締まれ、と言った職人がいたそうです。今、私の生き方から震災関連を取り除くと激ヤセしてしまい、メタボではなくなってしまいます。生き方として震災に向き合っていきます。さあ皆さま、ご一緒に!

３．１１に寄せて

東日本大震災復興支援委員
福島県支部　伏見 香代

あの時小学５年生だった娘も、まもなく 20 歳になります。福島の風景も激しく移り変わった８年間でした。私自身も「なごみ」に入職して多職種チームの洗礼を受け、その後、精神保健福祉士になり４年になりました。今回ご縁があって東日本大震災復興支援委員会に参加させていただき、新たな出会いに感謝しております。あれから良かったことも、悪かったことも様々ありました。まだまだ環境も自分も変化し続けているようです。

復興庁も 10 年の区切りを迎える準備が言われるなか、支援、復興の終点がどこかは分かりません。今は、除染作業の嵐が去って目の当たりにする、急激な人口減少（加害的な）という静かな災害の真っただ中にいるようです。

精神保健福祉士に出会えて良かった。
こんなに優しくて、こんなにも正義感の強いアイデンティティを持つ職種が他にあるでしょうか。
災害時も平時も、熱くて逞しい精神保健福祉士が手をとりあって、地域を暖かく見守り続けて欲しい（いきたい）と思います。

浪江町請戸港の初日の出

3．１１に寄せて

東日本大震災復興支援委員会
岩手県支部　北村 昇二

東日本大震災から、気が付けば８年という月日が経過していた。私の住む岩手県宮古市も、大きな被害を受けた地域であった。廃墟と化した町並みも、今は、きれいに区画整理され、新たな町として再建されてきている。明日の生活がどうなるか想像できず、その日その日を生活したあの時には、今の町並みは予想がつかないものであった。そして、今も復興半ばと、常に新しい道路、防潮堤、建築物等が建設され続けている。私が、子供の頃過ごした町が、正にそのような状況だ。私の記憶に残る建物は、何もなく、広くきれいな道路、建設中の高い防潮堤、そして不自然に多いきれいな公園。この光景に違和感があるのは、私だけなのだろうか。

宮古市内では、災害公営住宅は、２年前には全て整備された。現在は空室も出始め、被災者以外の方も申込可能となった。その一方で、仮設住宅で生活を続けている方もいる事実を忘れてはいけないと感じる。

只今、建設中！

浄土ヶ浜

公益社団法人日本精神保健福祉士協会　企画監修

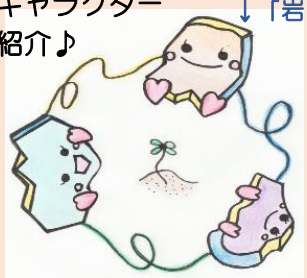
東日本大震災
復興支“縁”ツアーin　ふくしま

3/2（土）、3/3（日）福島県沿岸部の浪江町・広野町・いわき市をめぐるツアーが開催されました。

ツアーの様子については、次号でご報告させていただきます！

委員会のマスコットキャラクター
「えんが～る」のご紹介♪

岩手の
↓「岩(がん)ちゃん」



福島の
「福ちゃん」→

宮城の
←「みやぎん」

編集後記

3.11に寄せてお三方から貴重なお言葉をいただきました。

昨年、復興支援の事業にも取り組んでおられる岩手県ご出身のシェフから「うちの料理人の子が福島出身だよ」と紹介していただきました。

爽やかで真剣な眼差しの青年でした。「あの時（3.11）はまだ自分は学生で‥。家業は魚屋で。そのあとも‥大変でした。」それだけで互いに充分通じるものがありました。　当時中学生だった彼も、今はひとり上京して料理人修行中。８年の歳月を想像しました。

先日店に伺うと、「最近、じいちゃんの魚屋が地元（相双地区）で復活しました」と教えてくれました。私が「3月に“相双”行ってきます」とツアー参加を報告すると、彼は「地元をよろしくです」「なかなか帰れないから、今どんな様子かまた教えてください」と送り出してくれました。

また一つ、大事なご縁がつながりました。

（三瓶芙美／神奈川県支部）

【ご意見・ご感想をお寄せください】

本紙では被災した各地の仲間へのメッセージ及び被災地からの情報発信など、相互交流ができる紙面づくりを目指しております。

FAX もしくは E-mail：office@japsw.or.jp　で皆さまのお声をお聞かせください。

★題名に「PSW にゅうすについて」とご記入ください★

第 39 号　2019 年 3 月 15 日発行
編集：東日本大震災復興支援委員会
発行：公益社団法人 日本精神保健福祉士協会

〒160-0015 東京都新宿区大京町 23-3 四谷オーキッドビル 7F
TEL. 03-5366-3152　FAX. 03-5366-2993
★URL：http://www.japsw.or.jp/
★東日本大震災復興支援サイト
http://www.japsw.or.jp/ugoki/f-jyoho.html